

## 『思いをつなぐ市民風車～遠くて近いまちづくり』

三上 亨（特定非営利活動法人 グリーンエネルギー青森 事務局長）

[http://www.ge-aomori.or.jp/windmill/index\\_w.html](http://www.ge-aomori.or.jp/windmill/index_w.html)

みなさん、こんにちは。ご紹介いただきました、「グリーンエネルギー青森」の事務局長をしております三上と申します。我々は青森県の鱒ヶ沢町というところに市民風車を建てました。市民風車は 1500KW の容量のもので、この風車は、年間約 370 万 KWh 発電をする風車で、家庭でいうと約 1100 世帯分の電気を賄うことができます。事業費は 3 億 8 千万円かかったわけですが、そのうちの半額が補助金で、残りは一口 10 万円の出資金を市民の方に呼びかけまして、1 億 7 千 820 万のお金が集まりました。一口 10 万円で約 800 名の方が出してくれました。これは地元の鱒ヶ沢町はもちろん、県内の方、それから全国の方から集めたものです。

風車や地元の様子を見ていただきたいんですけど、この風車は 2003 年の 2 月に運転開始をした風車なんですけど、7 月にお誕生セレモニーということで、約 200 名の方が集まってくれました。これは鱒ヶ沢の町長さんで、挨拶している様子です。その時に風車の回りに花を植えようということで、キリンさんから花を 1 万苗くらい寄付していただいて植えました。この下の方が約 2 ヶ月後の様子なんですけれど、風車の周りを花で埋めたということです。市民風車の本体には名前を記名しました。この女性は、実はだんな様が亡くなって何年かたっている方なんですけど、自分の名前と亡くなっただんな様の名前を風車に記名したいということで出資をされて、こういうふうに記念撮影をしたんです。これはいくつかの小学校が総合学習の一環で風車の見学に来ている様子です。後でお話する青森県産の枝豆をブランド化しようということで、枝豆も売ったりしています。この方がその枝豆の生産者で木村さんです。

今、少しだけ様子を見ていただいたんですが、後は皆さんのお手元にある資料で話を進めていきたいと思えます。我々がもともと風車を作った目的というのは、「市民参加による風車建設を通じ、自分たちのエネルギーは自分たちで選び創り出すという仕組みを実現させる、同時に地域社会を活性化させていく」、そういう目的でこの風車を建てました。

この風車というのが、今、お誕生セレモニーの様子など映しましたが、単なる物体ではなく、ある意味で心がつながるような、そういう象徴なわけなんです。お誕生セレモニーを見に来た出資者の何人かの方が、「風車が輝いて見える」と言われるんです。私自身は風車は輝いて見えなかったんですが、東京から来たご夫婦などが、本当に輝いて見えるとおっしゃるんですね。その下に「あー、いだいだ」って書いてあります。この「いだいだ」というのは津軽弁なんですけど、ちょうど電車から風車が見えたときに、「あー、いだいだ」というのは、ある物体がそこにあったという言い方ではないんですね。「自分と心が通じて、あるものがそこにあるんだ」という感覚なんです。そういうふうを感じるということなんです。その下の「風車が元気に回っていると自分も元気が出る」と言っているのは地元の出資者の方で、保母さんなんですけど、毎朝風車の前を通るといって、それを見るととても元気になるといって、その下は「“わんず”はとってもかわいいですよ」とあります。これは実はわたしが言ったんですけど、いろいろなお客さんが来た時に「三上さん、風車見るとほんとにうれしそうにしてますね。」と言われると「ええ、

とってもかわいいんです。」と言ってしまふんですね。我々が何もしなくても市民風車の“わんず”は黙々と風を受けて回って、お金を稼いでくれて。我々はよく、遊び心をもって仕事をするという話もするんですけど、NPOというのはどこのNPOも収入が安定しないで苦労している訳ですが、我々はこの風車のお陰で幹となる事業といえましょうか、定期的に入る収入を持っているところが事業展開をする上で非常に助かっています。そういう意味も含めて、この風車を見ると非常にかわいく思えるということがあります。

先ほど写りました鱈ヶ沢の町長は、「NPOは世直し団体だ」というようなことを時々言うんです。非常に地域が閉塞感を持っている中で、鱈ヶ沢の町に風車が建ち、それを運営しているNPOと付き合いすることで自分たちも何か変われる可能性を感じている、と言う意味で彼はこの言葉を使っていると思うんです。今言ったことが、我々が風車を建てて印象にのこっている言葉です。

次は「グリーンエネルギー青森」のミッション・マネジメントと書いてあるところです。我々「グリーンエネルギー青森」のミッションというのは、「循環型社会の実現」と「地域の自立」の2つを言っています。必ずしも「グリーンエネルギー青森」というのは風車を建てるのが目的のNPOではありません。我々としてはこの風車を1つの大きな軸としながら、地域を元気にしていくとか、日本の社会全体を変えて行きたいと思っているわけです。「みんなハッピーなマネジメント」ということでいろんな関係者、ステークホルダーが自発的に参加する、あるいはそこに参加をすることで満足をする、そういうシステムの提案をしようと言っています。

そのうちの 하나가、資料に書いてあります「鱈ヶ沢町マッチングファンド」という仕組みです。我々の出資者の方々に年一回配当を払っているんですが、その中から寄付をお願いしています。寄付をいただいた方々の合計額と同額を我々「グリーンエネルギー青森」が拠出しましょう。さらにその市民とNPOが出したお金と同額を町に出してくださいと、町に要請しています。今年の6月に寄付を呼びかけたところ、25万円の寄付が集まりました。それに対して我々NPOも25万円出しましょうとなり、町で50万を拠出するというので、合計100万のお金で町づくり基金を作るということを今進めています。これは来年度事業化することになりました。要は、個人の方が寄付をしたお金が4倍になって町を活性化するための基金になるということ、我々が提案して、今実施されようとしています。

それから「省エネルギービジョン」と書いていますが、これはNPO法人が省エネ・ビジョンを受託する例はほとんどないと思うんですが、今我々はこのビジョンを受託して、町、あるいは住民の方といっしょに、このビジョンの策定をすすめています。

3の市民風車ブランド創出事業について少しお話しします。この事業自体は3つの組織がかかわっています。我々「グリーンエネルギー青森」が全体の企画やコーディネートをし、「あっぷるびゅあ」という企業組合が販売を担当し、生産は有限会社で「白神アグリサービス」というところが担当しています。事業の狙いとしては、「グリーンエネルギー青森」がミッションとして掲げる地域の自立を実現するためには、市民風車をきっかけに、鱈ヶ沢産の特産品をブランド化することが有効だと考えました。

この取り組みが成功すれば、一つは自立を目指す農家をサポートすることによって、結果的に

農業後継者を作る。実はよく農業後継者がいないという話をするんですが、なぜかと言うと農業だけでは食えないということがあるわけです。農家の方が本気で自立を考えていけば、その人たちをサポートすることによって、その人たちが継続的に農業で生活をしていけるようにしたいということです。もう一つはその裏返しで、今青森県でも非常に耕作放棄地が増えていまして、これをどう解消するかが大きな課題なんですね。今日本の食糧自給率は 40%を切るくらいなんです。これは青森県だけではなく、いろいろな地域で問題になっているわけですが、やはり消費者もそういうことを考えていく必要があるだろうということで、売れる農業を創りたいと、我々は考えています。3番目として、生産者と消費者の顔の見える関係をつくる、それはある意味でいっしょに農業をつくるということだと思っています。

実際に我々は、青森県産の枝豆を特産化するために「一坪オーナー」の事業をしたわけですが、約 160 名の方が 300 坪ちょっとのオーナーになってくれました。我々は消費者であっても農業に参加できるんだということを言いたいわけです。参加をする方法としてそのオーナーになる。なぜ農家が収入が増えていかないかについては、時間の関係上詳しい話はできませんが、今の農業生産物はほとんどが、農協などを通じて市場に出荷され、非常に安い値段でしか引き取ってもらえないということがあります。農家は、これまで行政の考え方もあって、作ることに専念してきたため、販売などには興味をもたないで生活してきているわけです。最近それが米などでもどんどん自由化され、急に「あなたたちも売ることを考えなければならない」と言っても簡単にそれを実行できる人はいないわけです。我々消費者の側から考えた時に、どういうことが言えるかということ、我々がそういう状態で、生産者の方が一生懸命作っても本当に安い値段でしか売れないという状態を放置しておく、農業の後継者はいなくなる、耕作放棄地はどんどん増えるということで、非常にマイナスなわけです。消費者も安全でおいしいものを食べたい、生産者の方も安全でおいしいものを食べさせたいと思っている、それを仕組みとして創っていく必要があると我々は思っているんです。それを我々は競争マーケットに対抗しうる「共感マーケット」というものを創出しようということを出資者の方を中心に呼びかけているわけです。

「グリーンエネルギー青森」に出資者、会員の方が約 900 名いるんですが、この方たちに呼びかけることによって、「一坪オーナー」の制度もある程度機能してきている。さらに会員、出資者だけでなく、その周りの方々に今市民風車ブランドが広がりつつあります。今日は「ネット・コミュニティ」ということが 1つのテーマになっていますが、今のところ強いつながりを持っている 900 名の方を基盤に市民風車ブランドの取り組みをすすめているわけですが、それをさらに拡大するために、今後の課題としてネット等をどう活用してそういう人たちの共感を集めていくのか、そこを次の次の場面でお話させていただきます。

最後にひとつだけ宣伝させていただきたいんですが、このパンフレットがお手元にあると思いますが、実は我々の風車は全国で 2 番目に建った風車なんです、今全国で 4 番目と 5 番目ということで北海道の石狩市に風車を建設する計画がありまして、4 億 7 千万出資を集めようと取り組んでいます。約半分もう申し込みが集まっているんですが、ご興味ある方はこちらのほうで資料請求をしていただければと思います。

それでは報告を終わります。ありがとうございました。